

I 平成 21 年度 事業 報告

第 1 事業の概要

平成 21 年度は、ボランティア団体や市民団体を主体とした国際交流・協力等の活動支援、青少年交流や国際文化フェスティバル等の交流事業を引き続き実施した。ちば市国際ふれあいフェスティバル・異文化交流サロンの事業においては、従来の事業の執行方法を見直し、ボランティア主導による企画運営で事業を実施した。

また、多文化共生マスタープランの策定準備として、市内在住外国人の現状についてボランティア団体等のヒアリング調査を行った。

第 2 実施事業の内容

1 自主事業

(1) 多文化理解推進事業

ア 交流サロン

市民と外国人市民が気軽にふれあい、情報交換や国際化の理解を深めることができる場を設け、相互の交流の促進を図った。

スピーチ大会、異文化交流サロンについては、ボランティアを主体として企画・運営を行った。

内 容	開 催 日	テ ー マ	参 加 者
親子三代夏祭りへの参加	8月16日	PAPチーム「千葉踊り」	計 119人 (うち外国人 58人)
日本語スピーチ大会と交流会	10月10日	日本に来てびっくりしたこと	計 94人 (うち外国人 33人)
異文化交流サロン	10月 3日	インドネシア・越中おわら 異文化舞踊交流のつどい	計 100人 (うち外国人 35人)
	3月20日	交流パーティー ～広げよう友達の輪～	計 63人 (うち外国人 32人)

イ 語学講座

国際理解の向上とボランティア活動の一助とするためにボランティア及び賛助会員を対象に語学講座を実施した。

内 容	受講時間	開催数	講師	受講者
英語サロン（前期）	2時間×10日	1回	粕谷 ナミ氏	18人
英語サロン（後期）	2時間×10日 (10回選択/18回)	1回	中西-スタニス 慧理果氏	30人
はじめての中国語講座	2時間×20日	1回	律 津 氏	19人
はじめての韓国語講座	2時間×20日	1回	姜 龍熙 氏	16人

ウ 青少年交流（市補助）

姉妹都市の市民相互の交流を促進し、次世代を担う青少年がお互いの国の文化・歴史・習慣等について理解を深めるため、引き続き青少年交流事業を実施した。

内 容	期 間	参 加 者
ノースバンクーバー市 (40回目)	(受入) 8月 5日～8月 19日 (派遣) 8月 3日～8月 17日	高校生4人・引率者1人 高校生4人・引率者1人
ヒューストン市(27回目)	(派遣) 8月 14日～8月 28日	中学生4人・引率者1人
モントルー市(12回目)	(受入) 8月 11日～8月 19日	青少年3人・引率者1人

エ 千葉市国際文化フェスティバル

「国際都市・千葉市」を内外にアピールするとともに、市民の国際理解を深めるため、官民一体となった実行委員会を組織し、姉妹友好都市のノースバンクーバー市から文化・芸術団体を招いて市民に紹介した。合わせて国際理解講座として、千葉市立稲毛中・高等学校において国際理解を深めてもらうための啓発事業を実施した。

内 容	開 催 日	会 場	参 加 者
プレイベント（ミニ公演）	10月16日	センシティエントランス	約200人
カナダ・ノースバンクーバー市から文化芸術団（オーケストラ・合唱）を招き、市民の音楽団体とコラボレーション演奏会を開催	10月18日	市民会館大ホール	902人
国際理解講座	10月20日	千葉市立稲毛高校附属中学校 千葉市立稲毛高校	154人

オ 多文化共生マスタープラン

22年度のプラン作成にむけた基礎調査として、ボランティア団体や各区窓口担当者等へのヒアリング、外国人市民アンケート等を実施した。

(2) 市民活動支援事業

ア 国際交流ボランティア登録・斡旋

地域に根差した国際交流及び多文化共生の推進を図るため、通訳、日本語学習支援等のボランティア登録及び斡旋を行った。

内 容	登 録 者	幹 旋
通訳	497人	31人
災害時語学	90人	—
翻訳	337人	10人
ホームステイ	102家庭	19家庭
ホームビジット	175家庭	20家庭
日本語学習支援	898人	581人
学校派遣	95人	4人
国際交流支援	413人	48人
文化紹介	171人	6人
合計	2,778人、家庭	719人、家庭

イ ボランティア研修

(ア) 日本語学習支援ボランティア講座

外国人市民に対し、日常生活に必要な日本語の学習を支援するボランティアの育成を図るための講座を実施した。

講 座	内 容	受講時間	開催数	講 師	受講者
入 門	これから日本語学習支援を始めるボランティアのための基礎的な予備知識の習得	2時間×1日	4回	松本明子氏	50人
養 成	具体的な日本語学習支援の方法を学ぶボランティアのための講座	3時間×16日	2回	松本明子氏	51人
実 践	日本語学習支援経験者の資質向上を図るための講座	2.5時間×10日	1回	伊藤三枝子氏	13人

(イ) 災害時ボランティア研修等

災害時における外国人市民とのコミュニケーション能力を有するボランティアを育成するための研修を実施した。

内 容	受講時間	講師	参加者
災害時ボランティア研修	4時間	多文化共生センター大阪 田村氏	37人

(ウ) 日本語ボランティア交流会

日本語学習支援ボランティア相互の情報交換や交流の場を提供するとともに、日本語学習支援に関する講師を招き、日本語学習に関する講座を実施した。

内 容	開 催 日	会 場	参加者
日本語学習者の話を聞く	9月2日	国際交流プラザ会議室	38人
身近な素材で会話を広げよう！楽しもう！！	2月1日		41人

ウ 国際交流・国際協力団体活動助成（市補助）

内 容	助成団体数
民間ボランティア団体の自主的な国際交流・国際協力活動の促進を図るため、市民団体の活動事業に要する経費の一部について助成	19団体

エ ちば市国際ふれあいフェスティバル支援

外国人市民と市民の交流の場を創出するとともに、団体相互の連携を図るため、「ちば市国際ふれあいフェスティバル」を開催した。今年度より運営協議会を組織化し、協議会による企画・運営を行い、協議会は事務局として支援を行った。

内 容	開 催 日	場 所	参加団体	参加者
ステージ発表、パネル展示による活動紹介、バザー等	2月21日	きぼーる	国際交流団体 42団体	2,000人

オ 日本語教室ネットワーク

市内の日本語教室29か所を協会のホームページに掲載し紹介する等、ネットワーク化を図った。

内 容	各区活動把握団体数
日本語教室を実施している団体	中央区8 花見川区3 稲毛区5 緑区3 美浜区10 若葉区0 計29団体

(3) 外国人市民支援事業

ア 外国人生活相談

外国人市民に対し、言語や習慣の違いから生じる日常生活の問題を解決するための窓口を設け、相談の受付及び情報提供を行った。また、電話の三者間通話機能を利用しての電話通訳サービスや市役所コールセンターへの多言語対応等の協力を行った。

内 容	言 語	方 法	件 数
外国人市民に対する相談	英語、中国語、韓国語、 スペイン語	相談窓口、電話、 メール等	1,831件

イ 外国人法律相談

外国人市民が直面する法律的課題を解決するため、千葉県弁護士会の協力により無料法律相談を実施した。

内 容	回 数	会 場	相 談 者
日常生活に関する法律相談	6回 (奇数月)	国際交流プラザ会議室	19人(9カ国)

ウ 留学生へのリサイクル自転車斡旋

留学生の生活支援を目的に、平成10年度よりリサイクル自転車の斡旋を行ってきたが、今年度は、募集に対して各大学からの応募がなかった。関係機関と協議の上、当事業は今年度末をもって終了となった。

エ 留学生学習奨励(市補助)

市内大学に通う本市在住の私費留学生の学習支援を目的として、図書購入費用の一部を支援した。また、地域における留学生との連携強化を図るため、留学生交流事業を実施した。

内 容	対 象	交 付 先
図書購入費の一部支援 (図書カード2,500円の交付)	市内在住・在学の私費留学生	市内6大学 359人
留学生交流員 (交流員の任命、 奨学金10万円の支給)	市内在住・在学の私費留学生 (大学から推薦を受けた者)	市内4大学 4人

オ 災害時における外国人市民支援

平成20年度に作成した防災マップ3000部を外国人市民に配布し、アンケートを実施した。

また市の災害時要援護者支援計画策定におけるパブリックコメントに外国人対策についての意見書を提出した。

カ 外国人児童支援(CLAIR補助)

地域の人的資源を生かして、小中学校に通う外国人児童の支援体制の構築をめざし、学校等のヒアリング、支援団体等による協議会を実施した。

(4) 情報収集・提供事業

ア ホームページ運営

協会の事業内容や外国人市民の生活に必要な情報について、インターネットを通じて幅広く発信した。また、ホームページを更新し、情報提供の拡大を図った。

内 容	時 期	対 象
協会事業、生活情報、イベント情報等を提供 (日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語)	随時更新	市民、外国人市民等

イ 協会情報誌発行

協会事業の案内及び報告、国際交流・理解等に関する知識及び意識の向上を図るため、市民向けに日本語情報誌を発行した。

内 容	発 行	部 数	配 布 先
協会情報誌「ふれあい」の発行（日本語） 60～63号（6ページ）	6月、9月、12月、3月 （年4回）	各3,000部	市民、賛助会員、 市内公共施設等

ウ 英語版情報誌発行

外国人市民等を対象に、イベント情報や国際交流・理解に関する情報を提供するため英語版情報誌を発行した。

内 容	発 行	部 数	配 布 先
英語版情報誌「The New Gateway」の発行 41～44号（8ページ）	6月、9月、12月、3月 （年4回）	各3,000部	大学、市内公共施設、 ホテル等

エ 生活情報誌発行

長期滞在している外国人市民に対し、市民生活に密着した生活情報である市政だより等の有益な情報を外国語に翻訳し、ホームページや各区外国人登録窓口、日本語教室等を通して、情報を提供した。

また、2月からボランティアの協力を得て、やさしい日本語による情報誌の発行を行っている。

内 容	発 行	部数	配布先
英語	月1回（12回）	各100部	ホームページ 各区窓口 日本語教室 市内大学等
中国語	月1回（12回）	各200部	
やさしい日本語	月1回（2回）	各150部	

オ 情報ラウンジ

外国語の雑誌・新聞や国際交流・国際協力に関する図書等を整備するとともに情報コーナーにおいて協会PRを実施した。また、インターネットコーナーにおいて引き続きパソコンを設置し、自由に情報収集できる場の提供を行った。

内 容	時 期	場 所
国際交流・国際協力などに関する関係図書等の整備（定期購読紙 19種）	通年	国際交流プラザ情報ラウンジ
情報収集用パソコン		

(5) 協会移転に伴う広報活動

- ア 賛助会員、関係団体への周知
- イ イベント用法被の作成

2 受託事業

(1) 千葉市から委託を受けた国際交流事業の実施

ア 千葉市国際交流プラザ運営業務

内	容
国際交流の場の提供や、外国人市民に対する相談、情報の提供などを業務としている「千葉市国際交流プラザ」の運営業務を受託	

イ 地域連携コーディネーター事業

内	容
国の「ふるさと雇用再生特別交付金事業」に基づき千葉市が実施する事業を受託。8月より非常勤嘱託職員1名を地域連携コーディネーターとして雇用し、地域と連携した在住外国人支援事業を展開することを目指して、養成する。	